

3月るりに澄む^す

令和7年度 原山中だより

【第11号】令和8年2月27日発行

これからの時代を生きる皆さんに

校長 遠藤 敏恵

1月の終わり頃から、進路の決まった3年生の皆さんが、その報告のために校長室を訪ねてくれています。「入試の面接ではどんなことを聞かれましたか」と尋ねると、ある生徒が「あなたが地球（の未来）のためにできることは何ですか」と質問された、と教えてくれました。一瞬、これまでの人生の中で、私もそれなりの数の面接を受けてきましたが、そんな質問をされたことなどあっただろうか、中学生の頃の自分だったら、今の自分ならどう答えるだろう、と思いがぐるぐる巡りました。面接という限られた時間の中で、中学生に「地球の未来」について問うたこの面接官の方の意図は何だったのでしょうか。

今から何十年も前、私はイギリスの大学で学ぶ機会をいただきました。まさに、ハリーポッターの物語に出てくるような歴史のある大学で始まった寮生活は、当初私が想像していた華やかなものとはかけ離れていて、自分の未熟さを思い知らされることばかりでした。まず、今まで自分が蓄積してきた知識が、そのままでは何の役にも立たないということを痛感しました。“I’m from Georgia「ジョージア出身なの」。”と話すクラスメートに、「アメリカから来たの?」と返すと、“No! GEORGIA「違う! ジョージア!!」!!”と地図で示され、「ああ、グルジアね。日本では『グルジア』って呼んでるんだ。」と言って、周囲の雰囲気を凍らせるといったことが多々ありました。当時のジョージアは、旧ソ連（現在のロシア）から、やっとの思いで独立したところで、ロシア語である『グルジア』の名称で呼ばれることは、彼女にとって辛い過去を蘇えらせることなんだと理解したのは、それから暫く経ってからでした。自然や工業、戦争や科学、人類や貧困等々、様々な国々から集まった仲間たちの話題は多岐に渡りましたが、私には意見など述べる余裕はありませんでした。そもそも、世界や人類などについて真剣に考えたことなどなかったため、意見と言われても、何も話すことがなかったのです。私のイギリスでの一番の収穫は、そんな自分や世界の人たちとの感覚の大きなズレに気付けたことでした。

「あなたが地球の未来のためにできることは何ですか」という質問は、ある意味、皆さんがこれまでどのようなことを学び、考え、これからどう生きていきたいか、と問うているのだと思います。きっとそこには模範解答などなく、今まで学んできたことをもとに、自分の心で感じ、頭で考え判断しなければ出せない答えです。皆さんには、これから益々、このような問いが降ってくることでしょう。そんな時には臆せず、そこで出会った方々にたくさん助けていただきながら、仲間と力を合わせ逞しく答えを見つけていってくださいね。ずっとずっと応援しています。

保護者・地域の皆様へ

今年度も残すところ1ヶ月となりました。保護者の皆様、地域の皆様には、本校の教育活動にご理解とご協力、そしてあたたかなご支援を賜りましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。来年度も引き続き、原山中学校をどうぞよろしく願います。

